

「経営環境の変化の下での人事戦略と勤労者生活に関する実態調査」  
 (調査シリーズ No. 38) の Read me

**企業調査**

本アーカイブデータの集計結果は、報告書に記載されている数値と一致します。ただし、報告書の結果と比較する際に注意が必要な箇所については以下に示しました。

1. 多重回答（二分選択）変数の値ラベルについて

本データにおける多重回答（二分選択）変数については、無回答変数（変数名の末尾に「\_na」を付けた変数）が設定してありますが、値ラベルには、0＝「非選択（当該項目を選択しなかったが他の項目を選択したもの）」、1＝「選択（当該項目を選択したもの）」の他に、9＝「無回答（全ての項目を選択しなかったもの）」も併せて設定してあります。

2. スケール変数とカテゴリ変数における「無回答の扱い」について

スケール変数と、それをカテゴリ化した変数を併せて提供している場合の無回答に相当するケースの扱いは以下の通りです。

スケール変数では、値は「9999」とし、値ラベルは「無回答」と定義しており、あわせて欠損値指定をしています。

カテゴリ変数では、値は「9」とし、値ラベルは「無回答」と定義していますが、報告書に掲載されている集計表が再現できるように欠損値指定をしていません。

本アーカイブデータで提供している SPSS 形式のデータでは、次のようになっています。

区分	無回答の扱い		
	値	値ラベル	欠損値
スケール 変数	9999	無回答	9999 を欠損値として指定
	該当する変数「q7」		
カテゴリ 変数	9	無回答	—
	該当する変数「q7_ca」		

3. 秘匿処理について

アーカイブデータでは、プライバシー・企業秘密にかかわる情報を保護しています。以下の設問に対するデータは、報告書に掲載されている集計表で用いられているカテゴリデータのみ公開しています。そのため、平均値は集計できません。

(1) 問3 就業形態別の従業員数 A. 正社員（変数名：「q3\_1\_ca」）

カテゴリ（数字は値ラベルの番号）					
1	2	3	4	5	6
1～99 人	100～199 人	200～299 人	300～499 人	500～999 人	1,000 人以上

(2) 問3 就業形態別の従業員数 B. 非正社員（パート・アルバイト、契約社員、嘱託社員等）  
 （変数名：「q3\_2\_ca」）

カテゴリ（数字は値ラベルの番号）					
1	2	3	4	5	6
0 人	1～9 人	10～49 人	50～99 人	100～299 人	300 人以上

- (3) 問3 就業形態別の従業員数 C. 外部人材（派遣社員と職場内の請負社員の合計）  
 (変数名：q3\_3\_ca)

カテゴリ（数字は値ラベルの番号）					
1	2	3	4	5	6
0人	1～9人	10～49人	50～99人	100～299人	300人以上

- (4) 問12 安定株主の保有する株式の割合（変数名：「q12\_sql\_ca」）

カテゴリ（数字は値ラベルの番号）			
1	2	3	4
10%未満	10～50%未満	50～100%未満	100%

4. 問2について（変数名：「q2」）

調査票における問2（従業員規模をたずねる設問）では「100人未満」のカテゴリはありませんが、変数名「q2」では「100人未満」のカテゴリを設けています（以下のカテゴリ表を参照）。これは、問3A（正社員数をたずねる設問）の回答と問3B（非正社員数をたずねる設問）の回答の合計のカテゴリとの整合性をチェックし修正した結果です。

（注）問3A、問3Bで無回答は0人として合計を出しています。また、問3A、問3B共に無回答のものはチェックを行っていません。

変数名「q2」のカテゴリ（報告書集計表掲載）

カテゴリ（数字は値ラベルの番号）					
0	1	2	3	4	5
100人未満	100～299人	300～499人	500～999人	1,000～2,999人	3,000人以上

調査票問2で設けられているカテゴリ

	1	2	3	4	5
	100～299人	300～499人	500～999人	1,000～2,999人	3,000人以上

5. 企業番号（変数名：「ID1」）

企業調査のデータには、企業番号（ID1）がふられています。なお、従業員調査のデータには、企業番号（ID1）に加えて従業員番号もふられています。詳しくは従業員調査の read me をご覧ください。

「経営環境の変化の下での人事戦略と勤労者生活に関する実態調査」  
 (調査シリーズ No. 38) の Read me

**従業員調査**

本アーカイブデータの集計結果は、報告書に記載されている数値と一致します。ただし、報告書の結果と比較する際に注意が必要な箇所については以下に示しました。

1. 多重回答（二分選択）変数の値ラベルについて

本データにおける多重回答（二分選択）変数については、無回答変数（変数名の末尾に「\_na」を付けた変数）が設定してありますが、値ラベルには、0＝「非選択（当該項目を選択しなかったが他の項目を選択したもの）」、1＝「選択（当該項目を選択したもの）」の他に、9＝「無回答（全ての項目を選択しなかったもの）」も併せて設定してあります。

2. スケール変数とカテゴリ変数における「無回答の扱い」について

スケール変数と、それをカテゴリ化した変数を併せて提供している場合の無回答に相当するケースの扱いは以下の通りです。

スケール変数では、値は「9」、「99」または「999」とし、値ラベルは「無回答」と定義しており、あわせて欠損値指定をしています。

カテゴリ変数では、値は「9」または「99」とし、値ラベルは「無回答」と定義していますが、報告書に掲載されている集計表が再現できるように欠損値指定をしていません。

本アーカイブデータで提供している SPSS 形式のデータでは、次のようになっています。

区分	無回答の扱い		
	値	値ラベル	欠損値
スケール変数	9、99、999	無回答	9、99、999 を欠損値として指定
該当する変数	・無回答の値が 9 「q13_nichi」、「q17_1」、「F2」 ・無回答の値が 99 「q28_1」、「q28_2」、「q29_1」、「q29_2」 ・無回答の値が 999 「q18_sq2」		
カテゴリ変数	9 または 99	無回答	—
該当する変数	・無回答の値が 9 「q13_nichi_ca」、「q17_1_ca」、「q18_sq2_ca」、「q28_1_ca」、 「q29_1_ca」、「q29_2_ca」、「F2_ca」 ・無回答の値が 99 「q28_2_ca」		

3. 問 13 1日の労働時間（変数名：「q13\_go」）

1日の労働時間（〇時間〇分）を「分数」換算した変数を、変数名「q13\_go」（合成変数）として掲載しています。

4. 問 14 自宅から勤務先までの通勤時間（変数名：「q14\_go」）

通勤時間（〇時間〇分）を「分数」換算した変数を、変数名「q14\_go」（合成変数）として掲載しています。

5. 企業番号（変数名：「ID1」）、従業員番号（変数名：「ID2」）

従業員データには、従業員番号（ID2）に加えて企業番号（ID1）もふられていて、企業データと対応できるようになっています。

（注）各企業に対する従業員データは最大で 10 データとなっています。

(例)

企業番号 (ID1)	従業員番号 (ID2)
100048	1
100048	2
100048	3
100048	4
100048	8
100048	9
100089	2
100089	6

6. 主たる業種 (変数名:「kq1」)

従業員データには、企業調査の問1(主たる業種をたずねる設問)の変数が割り振られています。なお、従業員調査の報告書掲載集計表において、当該変数の「業種」を示すカテゴリが表側に掲載されています。